照時間 迎えてくれた。 づけた。 スムカングル、 登りだすと、 まれたタンナBCでは、 ルートに は短い。 太陽が朝から暖 この キャシャー しかし南ピラー 太陽の恩恵は 太陽 ル ñ

キ ヤ シ ヤ 1 ライン ル 南 ·初登攀

哉

さんによって初登攀され、 残っていた。 - ッカーたちも目にすることができるこの山に、 日本のみならず北米やヨー は、 昨年秋、 ネ シ 僕たちは エ I ル ル 花谷泰広さん、 パ のクーンブ地方にそびえ立つ名峰であ そのニュースはあっという間に世界 てもいい。 成功への大きな鍵に \Box ッパの各国で高 馬目弘仁さん、 キャシャー 未踏の南ピラー なっ ルの女神 同に世界を 青木達哉 ίì たと言 評 価 は る を

駆け巡り、 受けている。

ヤ

-

ル

キャシャールの南ピラーで登った で「太陽」を意味する。 N M A (ニマ)。 両岸をメラ・ピークとク 「ザ・ニマ・ライン」と名 に挟 H 緩傾斜帯の

常に僕たちを見てい てくれた。

谷泰広を先頭にクライミン る草付を4550圴 タンナBC~5200% 11月6日 0次の下部岩壁の登攀だ。 時起床。 晴 口 初日は標高差が約 n ッ ククライミン ほど登り、 (Bivy1) · グ開 歩け 花 9

> 登攀を除いて全17ピッチ。 落石が多くなってきている。 らガリー 口 (最高5・9) 最 ーック 状態はもろく、 5200以付近で、 はすべてユマーリング。 高5. **バンド** 状の 8 -まで上 をこなしてい 口 を ッ $\overline{4}$ 上部に行くほど 9 ククライミン が 運よく雪 ŋ 0 そこか ほどの フ オ 同 岩 解 口 時 グ

バーク。 見つけ、 レ場に斜めに傾いたテーブル岩を の流水を見つけて補給した。 そこにテントを張ってビ ガ

11月7日

ユ ツ Bivy1~5%00% マーリングも息が切れ、 が 馬目弘仁を先頭に70だほどの 0) クバンドを登る なくなるようだ。 クライミングは寒く、 (最高5・9)。 (Bivy2) フォ 指 朝 口 の感 1 0 0) 口

> まう。 思っ しまった。 ヤー 目 ける」 」から喉が た以上に傾斜は緩く、 ル プラトー の上部岩壁 が カラカラに 内心楽勝と思っ まで来ると、 示迫ってきた。 な っ キ 7 し

気温は下がり、 0) みかけてきた。 頭に上部岩壁に取り付いた。 (最高5・8) 出だしだけ立ってい ズの足は凍えてくる。 プラトーを抜け、 クライミン 日が陰った途端 登ると、 青木達哉を先 て、 ・グシュ 5ピッ \mathbb{H} が 最

11 月 8 日 晴

クできそうなよい場

所を探し、 急いでビバ

ほど整地してテントを張

5

800以付近で、

2013年(平成25年) 2月号(No. 813) 公益社団法人 日 本 山 둆 The Japanese Alpine Club 定価 1 部 150 円 会員の会報購読料は年会費に 含まれています URL http://www.jac.or.jp

e-mail jac-room@jac.or.jp

次 目

イヤンヤール用ヒソー	
ザ・ニマ・ライン初登攀 ・・・・・・・	1
日本シスパーレ登山隊2012 南西壁への挑戦・・	4
ランシサ・リ北壁登攀 ・・・・・・・	5
オリンポス山の自然 神話の舞台を訪ねて・・	6
茨木猪之吉の肉筆絵ハガキ発見	
大正2年夏、上高地に重鎮集う・・	7
東西南北	9
十二支会と蛇越岳に登る	
支部だより・・・・・・	10
越後支部/東九州支部	
活動報告	12
集会委員会	
図書紹介・・・・・・	13
会務報告	15
ルーム日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
新入会員	16
図書受入報告・・・・・・	16
会員異動	17
INFORMATION ·····	18
■日本山丘公市教(公園書堂)的採品	土田日

・金・・・・・・13~20時

第2、第4土曜日……閉室

第1、第3、第5土曜日……10~18時

想通り岩は非常にもろく、 うだと予想していたパ ミングだ。 中させる。 ありながら急峻だ。落石やスタン の崩壊に注意しながら神経を集 精神的に疲れるクライ ートだ。予 それで

こが核心となる。そこから先はま たもろい岩のクライミングを強い クが出てくる 4ピッチ目には固い快適なクラ 神経を削りながら登ってい (5·10 a) が、そ

022付近)。今夜も横になって寝 リッジを削ってビバーク(610 いく。滑り台を半分ほど登り、 を繋いでロープを一気に延ばして 先頭を青木と変わり、 岩壁の中間部の雪壁に到達した。 ることができた。 たちが「滑り台」と名づけた上部 中に自然落石が青木の顔面を直撃 ,コ雪状のリッジへ少し下って、 7ピッチ延ばしたところで、僕 6ピッチ目では、 ユマー ロープ2本 -リング

11月9日 晴れ

雪壁を、花谷を先頭に登っていく。 リングで上がり、滑り台の上部の Bivy3~6の50~ (Bivy4) そこから先はミックス壁となる 昨日延ばしたところまでユマー

> わり、 さらに先にもシュガースノーのリ に難しい。 核心部は3~4ピッチ目。 もろい雪で、 シュガースノーのリッジはとても ここからが核心の始まりであった。 とマントルで越えていく。 立った出だしの壁をヒールフッ クス帯を越えればもうキャシャ ユマーリングで上がってくると、 ルはもらった、と思っていたが、 のリッジに到達。ここまでのミ 5ピッチ目より馬目に先頭を変 ムーヴ炸裂だ! (5・8 この難所に支点を作った。 6ピッチ目でシュガースノ 馬目の見事な支点構築 支点をとるのが非常 ボル 垂直に M 5 ダ ク

ッジが続いていた。 3人でその IJ

中間プラトーから見上げた、上部岩壁

ライミングだった。 れほどまでに、

今夜のビバー

地は巨大なキノコ雪の上である

は任せた」、花谷がそう言った。

そ

神経を削られるク

とができる 僕たちは今夜も横になって寝るこ 整地に時間を費やしたおかげで、 シュガースノーのリッジを切り崩 てくれない。 ッジを見ながら表情が強ばった。 ヤ ビバー シャールはそう簡単に登らせ ク 核心はここからだ。 (6350) 付近

11 月 10 日

Bivy4~6500 (Bivy5)

がルート上の核心であった。 1日費やした。このスノーリッジ 近いグザグザの雪となった。 とどんどんと傾斜を増し、 スノーリッジは高度を稼いでいく カーをとり、 ライミングだ。うまい具合にアン ノード。 「グレードは表記できない。 ·バースは、 ながらロープを延ばしていった。 ガースノーのリッジを、 キャシャールの上部へと続くシ 急峻なスノーリッジのト 非常に神経を使うク 足下の崩れる雪と闘 垂直に 花谷が あと 15

ラ IJ ユ

11月11日

さらに1ピッチロー

以付近

最上部の硬いアイスパートを登る馬目弘仁

Bivy5~6700 (Summit) (

6250 (Bivy6 2

 $\underbrace{\frac{M}{5}}_{\circ}$ ていった。ミックス壁を越えると、 ぶ溜まっていたが、 降していき、 ゼンが何度もはじき返されるほど 氷は非常に固く、 のピッチは固い氷のピッチだった。 最上部のセラックのパートだ。こ ックス壁に取り付いた(5・9 左側へ1ピッチほどトラバース下 ながら、高度を稼いでいった。 昨日の終了点から馬目を先頭に、 ここを2ピッチ登り、 疲労しきった体にムチを打ち 高度も上がり、 クラックの生じるミ アックスやアイ 順調に延ばし 疲労もだい

山頂だ。 にある吹き溜まりのようなコブが があったものの、 頂上だった。なかなかユニークな かと思ったが、さらに10%ほど先 上らしき場所へ出た。 ていった。 緩い雪稜を、 れていた。 から見えるエベレストを眺め、 たちをもて遊んでくれた。 っぱい延ばすと、 頂上着16時。 キャシャールは山頂でも、 フォ ブロ ッケン現象と、 最後にコブを登るとは… 口 1時間ほど歩くと、 スノーバーで支点を作 頂上稜線はガスに覆わ を迎えた。そこから 頂上を目指して登 頂上は少しの 晴れわたってい ついに頂 ついに頂上 雲の隙間 上稜 ガ ス 僕 頂 Ħ. 山頂に立つ花谷泰広と青木達哉

Bivy6 ~タンナBC

から、

西稜の取付である岩壁の上部 クスムカングルとの

懸垂下降を4

向

行ない、

ル

作ってくれた。

登頂祝

13 0)

口

・キシ

コル コ

深夜だというのに夕飯やチャイを

すぐにキッチンへ僕たちを通した。 ダワさんは心配してくれていて、

ウジーもサウニーも起きてきて、

11 月 12 日 た。凍り付いた寝袋をほぐし 周りを氷に囲まれたビバークは、 削ってビバーク(6250㍍付近)。 ビバークできそうなシュルントを 垂下降を途中で7回ほど行ない、 15 している西稜へと下っていく。 んなく、 番寒い夜をプレゼントしてくれ 0) 凍える夜を迎えた。 かし、 「肩を叩きあった。 早々に下山を開始。 喜んでいる暇はもちろ 晴れから雪 予定

らしく、 が西稜をトライして、引き返し 取っていく。 向かった。 こし、残りの2000だの下降 いく。視界は悪く、 あとは忠実にトレースをたどって トレースを見つけることができた。 い下降していくと、 るからだ。食事をとり、重い体を起 とができない。西向きに下ってい さらに下降していくと、途中で が落ちていた。どうやら他の 今朝は太陽の暖かさを感じるこ その落とし物のようだ。 下降は西稜へと進路を 1回の懸垂下降を行な クイックド 雪が舞ってき た 隊 口



転。辛い下山を強いられた それまでの好天が

高所順応 高所順応 11月 2日 11月 2日

メラピークにて

到着。 夜10時にロッジへたどり着いた。 音や明かりを頼りに下っていき、 がらも、 を見いだせない。 ί, 染み込んでいき、 水を飲んだ。 ○
於付近で湖の跡に小川を見つけ、 レ場を下っていく。 を叩くと、 ただいた。 深夜だったため、 後はひたすら下りにく なんとかたまに聞こえる ダワさんが出てきた。 ガスは深く、 カラカラの 所どころ迷いな 下る元気を少し 途中、 皆寝ていたが 体に水は 下降路 4 6 £ \$ 0 ガ

> 死んだように眠った。 僕達はドミトリー むと、 酔いはすぐに の寝袋に入り、 口

グレード=ED+M5、

標高差=2200㍍(ベースより2400

メンバー=花谷泰広、 〈行動概要〉 馬目弘仁、 青木達哉

〈主なクライミングギ

11 月 6 日

 \mathbf{H}

丰

ヤ

ヤ

1

南

ティックロープ(マムート・パフォーマンススタテ フ×7、スノーバー×2 など ムート・フェニックス) 8・0 デ×62 に、スタ メロットC4 (#0~#2)、 トC4×1セット (#0・3~#3)、キャ 13ボ×3本、ストッパー×1セット、キャメロッ イススクリュー22ギ×2本、アイススクリュー イック) 9 · 0 デ×60 ド ロープ各1本、 ー) 8・9´゚゚゚×60㍍、ダイナミックロープ (マ ・ダイナミックローブ(マムート・セレニティ ピトン・アングル×2、ピトン・ナイ トライカム×1

すばやく補給できたので大活躍。 ルのため、 少量で高エネルギーを補給できた。ジェ 食にエナジージェルの ひ持っていきたいものだと思った。行動 リフィルを使用。おいしく、遠征にはぜ 食事は、日清食品のカップヌード のどの渇きもなく、 「Shotz」を使用 凍らず、

ギングはなかったため、試していない。 ンソックス も使用できるように改造したが、今回ハン 火器は、 | Alpine Climber Socks ザ・ノース・フェイスのネオプレー リアクターを使用。ハンギングで 足に汗をかいても靴のインナー 翌日も行動できた。 を全

海外登山基金 クライミングレ ポー

本シスパ 挑戦 隊20 1 2

也

が、手つかずで残っていたことを をかき立てられるであろうこの 整備されており、 放牧で利用されるBCまでの道は 側からであり、 不思議に感じた。 標高差は約 録すらない。 れているが、いずれもパスー氷河 シス ある壁であった。 クライマーが見れば登攀意欲 パーレは過去に2度登頂 4000にあり、 BCから山頂 南西壁は登攀の アプローチはよ しかし狩猟や 気までの 迫力 壁 記 ź

れは ことに焦りを感じてい 晴天が続く日がほとんどなかった。 効果が薄れ、予備日が に冷たくなっていく。 ないことも多かった。 をもとにルートを模索する日が続 上部が確認できず、 いた。アタックどころか偵察にも アタックステージに入るが、そ BC入りしてからは、 ようやく晴天の周期が来たと思 時的なものであり、 一日中テントから出られ 写真と地形図 雨は日に日 減ってい 高所順応の 丸 すぐに 日

> 吹雪が襲ってきた。 登るのが精いっぱいだった。 によじ登るが、筆者はセカンド 積もったり、 りづらく、 ぱ付近の岩場であった。 支点が取 ックに、 日によって難易度が変わる。 した範囲内) わずかにかかる爪を頼り のっぺりした岩に雪が 薄氷が張ったりして は、 C 1上 5 7 0 0 核心部 **登** クラ で

中になんとかテントスペー あがる強風にもがきながら、 あった。下から氷雪と一緒に吹き が延びない。 取りながら進むが、 滑落すれば止まらない斜度であっ で積もり、 な難しさはないが、足を取られて 核心部前後の斜面には雪が膝 しかし翌日も、 アンザイレンして途中支点を 嵐が過ぎるのを待つ。 その下は青氷。技術的 精神的に辛い登りで いっこうに天候 なかなか距離 - スを作 壁の ま



BC 付近から望むシスパーレ南西壁

ころで、 と思う。 の恐ろしさを教えてわれわれを追 は最後まで甘い顔を見せず、 何ごともなかったが、 た距離はわずかで、幸運なことに っと登ってみたかった。 出した。 雪面から砂利に変わるというと しかし下山中、 雪崩に流された。 引き返して正解だった あと30分で足元 シスパー 流され 登山 レ

に値する登山者ではなかったこと 私自身が力不足を痛感する場面 由は天候不良であった。 今回、 シスパーレ南西壁に挑戦する 登頂を断念した最大の理 私が今回のパ しか | |-ナー L

れてい

たため、

この時点で下山を た。予備日も限ら

は回復しなかっ

日の朝のみ空は晴れ、

美しい景色

引き返すこととなる。

性を強く感じた。 を自覚せねばならない。 人間として、 成長する必 登山

感動した。それらもまた、 達成感があり、 れを支援してくださった方々に、 せてくれたパートナーと、 ルートに挑戦する醍醐味であった。 われわれが初めて見ていることに 朝焼けや雄大な景色を、 つながった時には、安堵とともに 分たちが想像して決めたラインが シスパーレ南西壁を登った距 私に機会を与え、多くを経験さ わずかであった。 雲上のラカポシの しかし、 世界中で 未踏 われ

日程 9月4日ルフィンズ勤務) 期間 ーツ本店勤務)、三戸呂拓也 メンバー 平出和也 山 23 22 21 20 13 日日日日日 12 日 5 日 2012年8月20日~10月6 6 1 1 シスパーレ南 フンザ周辺 BC (3750 x1) B C \(\text{A} A B C \) 上部偵察ののちBC下山 定ののちC1 ABC (5000) 場所決 5750以~BC下 A B C \ C 1 \ 5750 沿停滯 フンザ出発 未踏)パ (ICI石井スポ (5500 **) 5 7 (Shispare~ キスタン、 (ミウラド 5 Щ 登 山 日

少しだけ気持ちがゆら

ί,

だ。

ŧ

海外登山基金 クライミングレポ

 \vdash

ランシサ・リ北壁登攀

け

()

惹かれたことから、 ジを登りにいった鈴木啓紀が、そ ランタン谷最奥に位置するランシ 画は始まった。 の登攀中に雲間から見たこの壁に ンタン谷に座するヤンサ・ツェン めて出かけた。2年前、 サ・リ(6427点) 北壁登攀を求 というポストモンスーンの期間で、 2012年10 月 11 この壁への計 日 ~ 11 月 16 同じくラ 日

去に幾つかあるが、北壁への記録 はない。唯一見つけられたバリエ ランシサ・リへの登攀記録は過



ランシサ・リ内院から望む主峰

あり、 壊するセラックがある。 案外大変であった。 あたりまでは崩壊したガレ場登り 氷河の後退が激しく、 偵察を行ない、 サ・リ内院へ登り、 いという結論にも至った。 響を受けないラインはそこしかな 偵察で、セラックの崩壊雪崩の影 そして上部雪面へとつなぐもので 北西面を分けるリッジ状~北壁、 あったが、その上部には活発に崩 ガリー なかったり、落石の危険が大きく や不安定な岩場登りで、 メージしていたラインは、 ションの登攀記録は、 遠征前半は、南面からランシ 実際に現地入りしてからの 状にラインを引いたもので 南峰直下まで試登 順応と下降路 5000xx 水が取れ 私達の 北西 北面と 面 1

ル

るような氷も雪も消えてしまう。 イになり、 けて登るにつれて、壁と雪はドラ ートを延ばす。 'n 11月1日、 壁下部には氷のガリーがつな 落石も多いものの快適にル プロテクションを取れ 北壁へ向けてBC出 しかし、 上部へ向



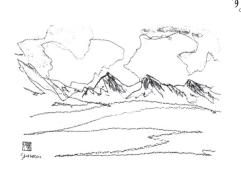
ランシサ・リ北面

攀を国内外で共にしてきたパート 攀は行き詰まってしまった。 の景色だ。 背後には素晴らしいランタンヒマ どの弱点が見いだせない。 ナーの鈴木とお互いの意思を確認 など必要なく、 敗退を決めるのに、 破することは現時点で無理だった。 のスタイルと実力では、これを突 を探しながら視線を巡らせると、 の強い外傾した壁に、 0 めながら高度を上げるが、 沿地点で弱点がなくなる。 ルの峰々が連なっている。 ーズな岩にプロテクショ 景色は最高だが、 いままで多くの登 長い話し合 われわれの登 クラックな 突破口 5 7 0 ンを求 私達 傾斜

めた。 し合い、 安全に下降することを決

メンバー:谷口けい、 鈴木啓紀

と増田亮さんによるパタゴニアで 峰(ネパール)と、横山勝丘さん です。 ピラー 2チー のクライミングがあります。後者 広島県山岳連盟によるアンプーI 登山基金を受けて実施された登山 ページのランシサ・リ北壁登攀 スタン)への挑戦、 ページのシスパーレ南西壁 (ネパール) はすべて、 当会の海外 1~3ページのキャシャール 今期この3チーム以外に、 ムについては、 (ネパール) 最後にこの5 初登攀と、 丰 4 南



ジオサイエンス

オリンポス山の自然 神 0 舞台を訪ね

疇

7 尚

総勢8人で登った。 の坂上、小疇とそれぞれの仲間 千葉支部長をリーダーに、 昨夏、ギリシャ哲学の学徒、 ずっと前から行ってみたい オリンポス山地は、ギリシャ神話 が神々のご ギリシャのほぼ中央に位置する 果たせなかったこの 住処として知られている。 同支部 山に、 と思い の

れることの多い山だが、自然に関 を紹介したい。 する記述が見当たらないので概要 わが国でも神話との 関連で語ら

構成されている。 東のヨーロッパ中部の山地の どでギリシャ第一、アルプスから その前面に扇状地が広がっている。 る東の山麓は断層地形が明 りの山塊で、ほぼ全域が石灰岩で やや長く延びた周囲100歳あま 最高峰のミチカスは標高2918 初登頂は、 オリンポス山地は北東~南西に ブル 高峰である。 ガリアのムサラに次ぐ 神を畏れてか、 エーゲ海に面 なおミチカス 一瞭で、 なか 19

> 地中海、 期に絶滅した北方種が残存して られている。 るなど、1500以上の種が数え ンの各地域の植物が分布し、 植物相が豊かなことでも有名だ 中央ヨーロッパ、 バルカ

山は、 山口には、 道順で歩いた。 回りに山を一巡して、 われわれは山上に2泊し、 山口からの往復が一般的なのだが、 ら車で30分ほどだ。オリンポス登 海抜1120㍍のゴル さらに谷奥のプリオニア登 山麓のリトホロの そこに下る トシア登 反時計 崱 か

面に、 登っていく。 次の尾根を越えて北の谷の斜面を そこから鞍部を越えて北隣の谷の 麓の断層とともに山地を隆起させ ている。 構造をともなう衝上断層が露出し 低角度で乗り上げた、 谷頭斜面を斜めに横切り、 た主要な断層であろうと思われた。 車を降りると、 直径数十たの細くすらりとし 山側の地盤が下側のそれに 周囲の地形からみて、 海抜1800 眼前の切り取 横倒し褶 さらに にまで Ш ᇤ ŋ



ミューズの台地からの「ゼウスの玉座

たブナを主とする落葉広葉樹林帯 マツが生えている。 そのなかの尾根や岩の 斜 面

は で、

いう。 この木は成長が遅く年輪が密で、 肉屋のまな板や高級家具に最適と ボ と土場の跡ではないかと思われる。 山口の駐車場などは、当時の林道 世代の木らしい。 て、 戦後の住宅需要でかなり伐採され クロマツは成長が早く、 上ではボスニアマツが多くなる。 だ付近まではクロマツが、 -腹以上は国立公園になっていて、 スニアマツの大木が目を引く。 7 今生えているものの多くは次 ツは2種類あって、 山中の車道や登 第 $\begin{array}{c} 1 \\ 4 \\ 0 \end{array}$ それ以 一次大 0

> 小屋の建つ広い尾根に出る。 に顔を出すカレンフェルトが広が の北側には多数の石灰岩塊が地面 林間放牧が行なわれている。 小屋があって、 登るにつれて木の丈が徐々に低 1 8 0 0 1 浅いドリーネのなかに牧夫の 付近でボスニアマツ 疎林のなかで羊の やが 小屋

界に出た。 くなり、 海抜2120㍍で森林限

ろうか……。 どあたりで姿を消す。 がまばらに生えている。この矮性 かかわらず、 登るにつれて数が減り、 ツと違って横には這わず、 ボスニアマツは丈が低いがハイ の背丈ほどのボスニアマツの低木 散在するのみで群落を作らな それより上の草付斜面には、 生活形がなぜこうも違うのだ 森林限界以下と以上 同じ種にも 2 5 0 0 個体が

だった。十数年前、 ツ(ムゴマツ) の目的はこの植物景観を見ること マツ属の生態学と生物地理 じつは、 売店で目にとまった新刊書 植物園にヨー Cambridge UP, 2000) オリンポス登山 を調べに行ったと ロッパのハイマ ロンドンのキ の最大 学 \mathcal{O}

見に行かねば、 のである 分布していることを知り、 バルカン半島南部の 部に広く分布するハイマツの ニアマツだったのである。そして 本文で、それがヨーロッパ中・東 最後のジグザグ道を登りきると 視界が開けて海抜2600 この と思い続けてい 山地に限って 『の矮性 いつか ない、 ボス た

ず息をのむ。 壮麗な神話の舞台は圧巻で、 沿余りの広い台地に出た。 ステファニ峰 面で、その正面に「ゼウスの玉座 ーズの台地」の名がある山頂平坦 日没の逆光に浮かび上がった そうか、 の東壁が屹立してい 登ってきた ミュ 思わ



オリンポス山の矮性ボスニアマツ。 丈は低いが横に這わず、群生しない

だったのか、 あの森は鎮守の と納得する 山 道 ば 参

圏谷壁、 ちがたむろしていたのであろう。 はなかったであろう。 台の成り立ちに思いを馳せること ち、さまざまな草花が目を楽しま 影響か、 のせいか、 広く開いた谷は明るく、 谷をプリオニア登山口へ下った。 この神話の舞台を知っていたのだ。 はるか神代の昔に、 前面に広がる台地に、ミュー という径750以、 スの玉座」は、 部をトラバースしていて、 びて明るく輝く「玉座」 ートから登っていたら、 った。この玉座にゼウスが座し、 の二重底の圏谷であることがわか 足置きがその下のドリーネの窪み、 山頂部を巡ってから、 朝 エーゲ海から昇る日をあ 座の腰掛が広い圏谷底 丈の低いハンノキが目立 雪崩や降雨時の出水の しかし、 背もたれの岩壁 羊飼いたちは、 深さ350以 もしこの の岩壁下 日当たり 東斜面の 神話の舞 ーゼウ ・ズた が ル

じつに夢の膨らむ山旅であった。 を一巡するというこのルートは、 山上に2泊し、 反時計 回 りに Ш

道 ヒストリー

大正2年夏、

1 頭、 が描かれている。 が2本、その奥に白い河原と牛が 筆の水彩画で、 高地より」と、○に茨のサイン。 絵ハガキを見つけた。 先 日、 草むらに切り株と蕗の葉 横浜の骨董市でうれ 「白樺の幹、 左隅に

んだものであろう。 く牛小屋の番人が、 るのは野蕗ではなく水蕗。 た。そして、この一 徳沢にかけて、 も切り株があった。 伐採していた。だから、 まえは、 上高地が国立公園に指定される 30~40年に一 牛が放牧されて 帯に生えてい また明神から 里から持ち込 度、 どこにで 白樺を おそら £ \$

来ました した 二三日前に槍ヶ岳に登って 猪之吉」である。 谷上根岸 ン夫妻も近々に参へられる様です し人は「上高地温泉清水や 先月二十三日に上高地に参りま この絵ハガキの宛名は 中々賑やかです 亀谷得太郎」、 痛快だった ウェスト そして文面には 高村光太郎氏 東京下 差し出 茨木

に中学を中退し、

茨木猪之吉の肉 地 絵 に 重鎮集う 11 ガキ発見

楢の木 じい 正 肉 滞在 も居ます 日付は、 御便乞」とある 小生は本月 一十日頃迄

関

塚貞

入り、 違いない。 3日に槍ヶ岳に登っている。 りしている。そして茨木は、 年8月に、 に投函されたものであることは間 て絵ハガキは、 夫妻も、 3人で清水屋に同宿。 高村光太郎は、1913(大正2) 常念岳に登るため上高地 画家の真山孝治と、 妙義の猟師・根本正蔵を 白骨温泉から上高地に 六日とあるだけだが、 大正2年8月6日 ウェストン 茨木と 8月

槍ヶ岳へ登ったとき、 の一人らしいが、 会員番号262番。 木は、1911 番号139番。同期入会者に、 41 年、 茨木は、 宛先の亀谷は、 亀谷は、 日本山岳会に入会、 (当時16歳) 明治37年7月 茨木のスポンサー (明治44) 年入会、 詳細は不明だ。 1 9 0 8 大正2年に、 がいる。 満23歳であ 16歳 会員 朗 \mathbb{H}

に呼びか その文面で、 景を描いた絵ハ 手に住んで ように ・も思える。 けているの 15 「得チャン」 た亀谷に、 ガキを出 と親し、 してい 八瀬 幼なじみ \hat{O} げ . る。 風

木操、 茨木、 関 宿 Ш 暮理太郎、 なぜなら、 重要な年だ、 では 私は、 |岳部に わっ 泊し 東大山 高村、 た鹿子 中 な 7 慶応義塾大 に関わっ 65 0 大正2年を 13 在学) 会の 田 が、 る と関心をも 部重治、 ウェスト 木員 0 た辻 創設 さらに 年 などが清 島鳥水、 山 信 Ó 荘 登 岳 者 上 部創設 一高旅行 山 である大 寸. , 夫妻、 高 Ш う (当時 岳 教 地 史 水屋 7 |会会 大学 E に 水 15 15 部 は た。 Oは で 木

画 |塾に入 っ た。 その 蜭 蒔 浜 Ш 泊 ていたからだ。 人 0) 谷江 風

茨木猪之吉の肉筆絵ハガキ。上高地で描かれた水 彩画で、左隅に○印と茨のサインがある

ときのウェストン夫人の病気は

たと

明

神

『日本アルプス縦走記』

に、

そ

が、

注意さ

れ

た

0)

は窪

田

55

i ,

う

Ó

が真相であろう。

 $\overline{\mathbb{H}}$

は

と呼び でウェ という の 口 隣室の 説き、 高村 注意される。これに対し、 寝ているから静かにしてくれ」 ねてきては歓談。 旧知の茨木、 る窪田を、 |等の部屋に案内| 清水屋は、 で が はない ス ウェストン 陰口もでたが、 かけられ、 同も \vdash 彼 ウェスト ンと交際の 0) 高村、 郷土 納得する Ĥ か、毛唐というのは 本の から そしてある日 핊 夫人 真 7 Щ 寡 ン夫妻の Ш 屲 0 ある茨木と 八が病気 もしもし そこへ、 名士 0) 幕もあ 岳会会員 が毎夕訪 水 「まだ宵 功 屋 積を 隣 で 15 ح で の あ つ 宿

ŀ 宿 怒られたと書い 7 15 た大木や辻も、 た本も ゥ あ 工

仲

間

 \mathcal{O}

窪

 \mathbb{H}

空穂

和

 \mathbb{H}

村

槍の 0 赤沢の 縦走に出発。 地に入り、 と述べてい 合で嘉門次の隠居に会う。 明 部 なしで槍ヶ はなかっ なかで書いている。 チされる。 木暮と田部は、 ?神の嘉門次の ö 肩で荷物を整理して 行に追い 梓川を徒渉 著書 高の連中が 小屋をたってきた 大荷物を担いだ姿をスケ 温泉へ る た)風邪をひ 『槍ヶ岳から 横尾 越さ Ŕ そして翌3 から立 L れ、 小 で、 の途中で茨木に 登ってきた、 8 7 屋を尋り 月 当 身軽 $\vec{2}$ Ш 日 ί, いると、 Ħ 日 蒔 までの大 たの 本海 (大木操 な茨木 俣 ね

案内

要な年であった。 ら8年目にあたる。 心わり、 大正2年は、 冒険時代が 日本山 始 探検 [岳会創 ま っ 時代 た 立 が 重 か

大正2年夏に、 きき た人それぞ ずれ近 表したい。 れない 11 う 工 れ 上高 ピ 1 地 σ 山 F 温 紙 岳 が 泉 に宿 あ 面 で

泊し

日本山岳会団体傷害保険

加入対象者(被保険者):日本山岳会会員の皆様 会員の方がご加入の場合、配偶者、お子様、ご両親、 ご兄弟、会員ご本人の同居の親族及び同居の使用人 の方も同時にご加入いただけます。

中途加入可能です。まずは、資料請求下さい!

海外登山の保険、その他損害保険・生命保険全般ご相談も承ります。

^{東京海上日動火災} 株式会社東海日動パートナーズ東東京 団体傷害保険資料請求担当:藤田 Mail:a.fujita@tnp-higashitokyo.co.jp

TEL.0120-161-808 FAX.0120-161-809

4

H

の落

飯田勝之

多数加入している。 の会である。 ずつ登ろうではないか」と呼びか 支にちなんだ名前の山に毎年一つ 登るのである。 する。そして、翌日は干支の山に から、毎年続けられている同好者 けて発足。1960 (昭和35) (日本山岳会第13代会長) 十二支会とは、 前夜は久しぶりの再会を喜ん おおいに飲み、おおいに歓談 日本山岳会会員も、 故今西錦 年に1度集ま が、 司氏 年

で大分県の蛇越岳の年は発しで、は今年は発しで、は されていない。 千分の1地形図に標高点しか記載 登山が行なわれることになった。 が選ばれ、 蛇越岳は、国土地理院の2万5 1月12~13日に例会と 地元でも無名で、 蛇年にちなん 1024

Ν

S

短歌、詩などを掲載する ジです。 どしどしご投稿く (紙面に限りがありま すので、1点につき1000字程 度でお願いします)

ある。 が登るときに、下山ルートの目印 嶺で、立石池には大蛇伝説も残っ ている程度だ。 としてつけたテープが点々と残っ まった登山ルートはない。 峠からの高度差は150%で、 知らず、また登ることのない山 ている。 から蛇越岳に至る稜線は中央分水 よほどの嗜好者で 登山口となる立石池湖畔 また、この立石峠 なけ n ば名前 登山者 定 \dot{O}

6 貝 などの雑草を刈った。また、 広場を覆っているキイチゴやカヤ 行なった。登山ルートとなる入り ランティア参加で登山道の整備を フィックスロー なところには鍬でステップをつけ、 ジグザグルートにつけ替えた。 につけられている目印のテープを、 口の作業道、 十二支会の登山にそなえ、 危険な木の株や枯れ木、 16名の東九州支部員が、 および駐車場となる プを張った。 直登 さら 1月 倒木 急 ボ



来年の午にちなんだ山での再会を約束する 下山後、

賑やかな懇親会となった。 を迎えた会員の紹介などもあり た。還曆、古希、喜寿、 の除去などの作業も行なっ 12日、全国から会員58名が集 傘寿など っ

均年齢は70歳に近い。 後して登るパーティが3組あった。 して13日も、 がこの無名の山に登っていた。 県から貸し切りバスで30名の団 人が後を絶たない。 新年になって、 紹介された。 前に地元新聞 会による蛇越岳登山のことが、 13日、蛇越岳登山。この十二 十二支会は、 十二支会の団体と前 その影響もあってか、 (大分合同新聞) 蛇越岳登山をする 50代から8代、 6日は、 頂上まで そ 体 岡

> あり、 早めの下山開始 で歓声をあげ、登頂を喜び合った。 20分あまりで登る人もい 午後から雨との天気予報をうけ、 寿などを迎えた会員の慶祝行事 を待って、還暦、古希、 分かかる人もいる。 「バンザイ」と「ヤッホー 全員が揃うの 喜寿、 れば、 が 傘 45

9

再会を約束し、

解散した。

参加者はみんな大喜びだった。

来年の午にちなんだ山

での

手作りの温かな甘酒や、ぜんざい

下山後、

登山口では支部会員

などで迎えてくれた。寒いなか、

全国各地の支部から、 それぞれの活動状況を、 北から南へとリポート します。

会を開催 尾上会長を迎え年次晩餐

盛大に開催された。毎年12月第2 次晩餐会が新潟市の東映ホテルで 土曜日が越後支部恒例の晩餐会で 平成24年12月8日、 84名の参加があった。 越後支部年

越後支部として慶事の重なる記念 すべき晩餐会となった。 さらに、 発行の運びとなり、 支部機関紙 をいただき、 が環境大臣賞の栄誉にかがやき、 科学大臣賞、七澤恭四郎支部会員 者に直接手渡しすることができた。 来賓として尾上昇会長のご出席 藤井信支部名誉会員が文部 加藤明文支部会員が藍綬 『越後山岳第12号』が また5年ぶりとなる 新刊本を参加

故された支部会員4名 会進行で会式宣言、この1年で物 14時より桐生恒治事務局長の (久保田全、 司

> に黙祷を捧げた 朝妻三松、 横山 征平、 五島保夫

さつ、 長の祝辞と続いた。 を紹介し、 水年会員表彰を受けた支部会員6 12月1日の本部年次晩餐会で (上村幹雄、 渡辺幸栄、井野進、桑原勇蔵 阿部信 山崎支部長の開会あい 一新潟県山岳協会会 永島賢司、 山崎幸

指して」と題し、ご講演いただい ら「日本山岳会の再生と復権を目 第一部記念講演は、 尾上会長か

時間だったと思われる。 強を主体にして反転攻勢に転じて 会の会員減少と高齢化に歯止め だき、支部会員には非常に貴重な 引き受ける経緯や、この3年間に いきたいとの決意を語られた。 実績をわかりやすく説明していた 会長として取り組んできた内容 当時、 かってきたこと、今後は支部増 東海支部長から会長職を 日本山 が 岳



盛会であ った年次晩餐会。 尾上会長を囲み記念撮影

から登山報告がなされた。 員 5名を代表して、 事業で東崑崙支脈に登山した支部 省登山協会の兄弟締結20周年記念 注力していきたいと思った。 入会者の促進や若手会員の育成に それを聞き、 新潟県山岳協会と中国・青海 越後支部としても、 遠藤俊 その

利幸会員にあいさつしていただき 復活会員として仲間入りした楡井 拍手がおくられた。また、 臣表彰者の経歴紹介があり、 正巳副支部長より褒章受章者と大 が加藤、 一部の晩餐会開宴前に、 藤井、七澤各氏に盛大な 橋本

0)

咲かせる越後岳人のサロンの場で 会員が一堂に会し、 により祝宴に入った。 坂井厚支部名誉会員の乾杯の音頭 山談義に花を 多くの支部

がりをみせた。 る機会に恵まれ、 成功裏に終了した。 部監事の万歳三唱で中締めとし さらに尾上会長とも直接会話す 遠藤家之進正和支 大いなる盛り上

心より感謝申し上げます。 と親しく懇談くださったことに、 程で参加していただき、支部会員 まで飛行機で来県していただいた れたと連絡をいただいた。 尾上会長には、 帰路は荒天で名古屋便欠航と 新幹線に乗り換えて帰名さ 名古屋から新潟 強行目

(桐生恒治)

トレッキング入門講座を修了

過程・8日間の講座のすべてを終 冬山体験実践講座」を終えて、 24年12月22~23日の トレッキング入門講座」 東九州支部が実施した登山教室 小屋泊まり は平成

この講座は、 当支部が 般の初 予想を上回る応募者でスタートした講座

内や九州、 介」、「山登りの道具の揃え方」、 しさを感じよう」から始まり、「県 「疲れない山の登り方歩き方」、 登山中のけがや病気とその処置 山の危険と遭難とその備え方」、 いろんな山へ行って山登りの楽 9月12日開講。 全国のいろんな山の紹 カリキュラムは

24日に終えた。 日間で、8つの課程の座学を10 地図の見方読み方」など4回 山の天気とその対応」、 山 で 月 4 0)

践では、かんたんなロープワーク キャンプ場のコテージで野営。 杵築市の鋸山で体験した。 と岩登りなどを交えた軽登山を、 いうテーマで、杵築市大田村横岳 キャンプして山を体験しよう」と その後、実践講座として11月に 最後は12月に「小屋泊まりして 実

ワーポイント資料など、

すべて担

けして担当。

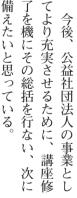
講座のレジュメ、パ

トーに、講師はすべて会員で手分

と厳しい冬山体験となった。 つける三俣山への登山で、 ちょ つ

あった。 した。また、自前で手作りをモッ きてよかった、との声が多かった。 さを知り、 州とはいえ冬山の雨や吹雪の厳 ロープワークや岩登りの体験 になった」など、 よい講座であった」、「大いに参考 た受講者のアンケートでは 受講者は限られたが、 て、 受講料を最小限に抑えることに 実践講座まで全課程を受講した (実践登山は別に実費徴収)と 座学4回8課程で400 とくに実践講座参加者は 思いもよらぬ体験がで おおむね好評で 座学を含め 大変 九

たことは否めない。 だけに、 山講座の実施に取り組んだ。 はじめて一般向けに、 当講師が手作りで準備。 今後、公益社団法人の事業とし 未熟で荒削りの面があ 系統的な登 こうして、 それ



冬山を体験しよう」だ。九重ヒュ



もあり、

締め切り前に受講のお断

上の応募者があった。会場の事情

ネットや地元紙 (大分合同新聞社 を行なった。ところが、インター

に掲載されたこともあり、

予想以

心者向けとして初めて実施した登

山教室で、当初は定員20名で募集

りをするなか、

38名の受講者でス

タートした。

三俣山頂でちょっと厳しい冬山体験

飯田勝之

山登り、

翌日は小雪と北風の吹き

なかを泉水山から黒岩山をめぐる

の体験をはさみ、

前日は冬の雨の

ッテで、

山小屋での楽しみ方など



活

動

報

集会会委員会

年次晚餐会記念懇親 一に登る

ろには、 走っていく。車窓からは、途中、 はビルの てしまっていた。 富士山の姿を眺めることができた せたバスが出発した。 「から100名近くの 平成24年12月2日、 十里木の駐車場に到着するこ すっかり雲のなかに隠れ 間を抜け、 Ш 2台のバス [を目指して 参加者を乗 品川駅港南

がら、 冬のこの時期に登ったことはなく にも登ったことがある。 みんなで集合写真を撮った。行動 みかんと水の差し入れをいただき、 とても楽しみにしていた。 今回のこの晩餐会記念懇親山行を 中に天気が崩れないことを願いな 地元の 駐車場で、静岡支部の方々に、 登山口を出発した。 山である越前岳には以 しか 前

日本山岳会の 各委員会、同好会の 活動報告です

ちがよかった。 くらいの所にある、 階段が続く。 は雲のなかだ。でも、 広場に着いた。開けていて見晴ら 山頂までの道のりのちょうど半分 山焼きをするときのためだそうだ をしている人が何人かいた。 がいいのだが、 登山口 を出発して、 道の両端で、 あいにく富士山 三角点のある とても気持 しばらくは 草刈り

でいて、 山頂に着いたときには、 まれていることを実感する に出会った。 く湿った道になった。ここでは、 いなかった。皆の到着を待ってい な子供や犬を連れている人たちま 山頂を目指すいくつかのグループ での明るい雰囲気とはうって変わ 大きな岩が増えてきた。 速めのペースで登ったせい 広場を過ぎると、 苔が木の根を覆っている、 越前岳が多くの人に親し そのなかには、 道が悪くなり、 まだ誰も 先ほどま か、 小さ 暗



越前岳に100人を超える仲間が集った

下山した。 食べて、 ワンタン麺をくださった。 登ってきたひとりの方が、 さんが到着し、 をしても体は温まらず、 体が冷えてしまった。 も吹いてきて、 るとパラパラと雪が舞 お湯も冷えてしまっていた。 しばらくすると、 寒がっていた私に、 ポカポカに温まってから 山頂はにぎわって 防寒はしていたが ぞくぞくと皆 腹ごしらえ 13 テルモス それを 後から 温か 強 13 風 15

0)

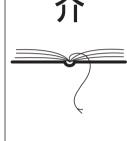
きた。

とができた。 に登り、 える経験豊富な方々とともに、 今回の山行では、 いろいろなお話を聞くこ 貴重なお話を聞けた 1 0 0 人を超 Ш

> 思う。また皆さんと一緒に山 ことを嬉しく思い、 きたいと強く思った。 集会委員会の方々に感謝したいと 行を計画し、 準備してくださった そしてこの 一へ行

(静岡支部 竹渕 16 歳





幕末・明治の山旅 『富士山に登った外国人 山本秀峰・ 編訳 /村野克明 訳

2012年12月 露蘭堂刊 A5判 2475 定価 3570円

富士山に登った外国人 - #X・明治の心故 -心の何をつ、 HEIXN Z

だけでなく、 た富士山の登山記録のなかから、 る年表および文献リストが付され 国人による主要な富士登山に関す があり、 者紹介と著書の概要」による解説 いる。各パートのはじめには 治にかけて来日した外国人が残し 。編を選んで訳出したもの。 表題 0 巻末には、この時期の外 参考になる。 示すとおり、 図版なども収められて 原著に収録された写 幕末から明 著

っては、 近代アルピニズムの受容をめぐ お雇い外国人の果たした

> 役割、 記録をひとつにまとめて紹介して よぼしているが、その主要な山 いることをまず評価したい。 登山実践が大きな影響をお

> > て、

るため、文章の内容や性格も多彩 山の意図・目的、 かつ豊富なものになっている カテゴリー た点で、それぞれに異なってい その人選にも配慮がなされてお まずは自然科学的関心。 そして女性など、さまざまな 人々の生活に対する関心とい 外交官、学者、 から選ばれており 山と向き合う姿 宣教師、 近代ア 芸術 登

認できる 学的観察がなされていることを確 ドに対して、 こでも日本という新たなフィール 関連性はつとに指摘されるが、 ルピニズムの誕生と近代科学との 強い関心をもって科 Z

情緒的もの珍しさもさることなが 態、風俗・慣習などについ また、山村の自然環境、 て、 生活実 異国

> 姿勢が示され、 と見られることも見逃せない。 学協会の紀要や『アルパインジャ 章のいくつかはイギリス王立地理 とれるはずだ。 向けたまなざしとの同質性も見て ナル』に掲載されたものであ ヒマラヤのような地域に対して それにとどまらない探究的 ある程度は公的な性格の記 その意味では、 そこには、 西洋人 文

いる。 の違いなども印象的に記述されて 日本人案内人との軋轢、 ためにいわば無理矢理同行させた 山事情からいって当然だが、 たことは、当時のヨーロッパの登 たちが積雪期の山行に意欲を見せ の対象でしかない。また、 せるご来光も、 もおもしろい。 行なわれている信仰登山との対比 りで、日本人により、 彼らの近代的な登山と、そのまわ さらにアルピニズムの点では 彼らには自然観察 日本人が手を合わ 依然として 登山技術 外国 その

らし、

沢駒仙小屋)

ていなかった段階にとどまってい 記録を書く習慣も要領も身につけ 日本の 頃の日本人がこうした客観的 集められていること、 時期における資料性の高 登山史において重要なこ しかもこ い記録

0) が 0)

> を知るうえで本書の有効性はきわ めて高いと言えるだろう。 たことに鑑みるなら、 当時 で実情

飯田年穂

開拓の父 竹澤長衛物 語 松尾 南アルプス 修 著



ず名前があがるのは、大正から昭 営に携わった竹澤長衛であろう。 和初期にかけて名ガイドとしてな 奥深い南アルプスに登山道を切 のちに北沢長衛小屋 プスの山人といえば、 などを建て、 2012年11月 その経 (現、 山と溪谷社刊 B6判 3363 北 ま 定価 1890円

南ア

ル

登山者への愛情、 を愛し、これを守ろうとする心、 話に共通するのは、 社会に対する責

話はいまだに語られることが多い

紀が過ぎたが、

長衛翁にまつわる

ある。亡くなってからすでに半世

は、はずすことのできない人物で

南アルプス北部の登山史を語るに

り拓き、

誰もが登れる山にした。

任感、 生きざまである。そんな彼の 越した行動力」をもった長衛翁 るに違いない 開催している。 が北沢峠で毎年6月末に長衛祭を を偲んで、 なりに接したことのある会員も なかには、 それらの想いを実行した卓 伊那市と南アルプス市 若い時に長衛翁の人と おそらく山 岳会の)人柄 $\tilde{\sigma}$

ある。 役所に出向し 遇されていると感じざるを得ない 比べると、 を考えても、 触れているのはほんの数行だけで 山人伝』 ガイド登山の終焉期にあたること もかかわらず、 いて書かれた資料は驚くほど少な 南アルプスの登山史を語るうえ 本書は、国土交通省から伊那 これほどまでに重要な人物に 安川茂雄氏の 長衛翁の活躍した時代が、 のなかでも、 不釣り合いなほどに冷 北アルプスの山人に 長衛翁の事績につ 『日本アルプス 彼につい 市 7

片的であると感じたことが発端と てきた著者が、 本書は研究書でも、 なって書かれたという。 って詳しく知りたいと思ったとき 長衛祭にスタッフとして携わ あまりにも資料が少なく、 長衛翁に興味を持 か しこまった しかし、 断

> 長衛翁の生涯を物語化した」 である が読んでも理解しやすいように、 書いているように、 伝記でもない。 あとがきで著者 現代の若者 一お話 が

部分、 違いない。 衛翁を知る人たちから話を聞き集 少ない資料を丹念に読み込み、 るとおりだったように思えてくる 物の心情が、ほんとうに書いてあ せざるを得ない。 像による肉付けで大きくふくらま に書いているものだから、 少年向けの伝記物語を読んでい しく、 い素直な想像を加えているからに めたうえで、 から不思議である。 いくにつれ、 ようである。 ドや登場人物の心象は著者の想 物語だから語り口はとてもやさ とくにエピソードや登場人 わかりやすい。 そのふくらまされた わずかな資料をもと 余計な解釈をつけな しかし、 それは著者 まるで、 読んで エピソ が

味がある。 長衛翁の生きざまを知ることに意 らこそ、 読んでもらい ション化してしまった時代だか 今のように登山が観光化、 本当の そのためにも多くの たい本である。 意味で山を愛した フ P

近藤雅幸

連 鍷 宗 編著

臺灣百岳全集



2007年 上河文化團隊刊 31 x × 23.5 x 256%

2007年 上河文化團隊刊 $31_{7}^{5} \times 23.5_{7}^{5}$ 2725

2007年 上河文化團隊刊 31 x × 23.5 x 2883

集されている豪華な山岳全集であ 図 事長から日本山岳会に寄贈され neering Association) 健行登山會(China Taipei 全集3巻が、 一系の [書室の充実に寄与すると思う。 ページが、 台湾の 全集の構成は、 概説と地 Щ 岳を総合的 C T M A Щ 図 のカラー写真で編 次の通りである。 そのほとんど の陳慶章理 に紹介する 中華民 Mountai た

> となっている。 央山脈南段」、 巻は、 玉 Щ Щ 中 塊 - 央山 雪山· 脈北段 Щ

である。 あわせてお読みいただければ幸 その講演に関しては、 のアルプス」の講演をしたことへ 台北で「最後の辺境 Щ この全集は、 日本山 (811号) 岳会への返礼でもある。 私 で報告している。 が昨年 すでに会報 チ 11 ノベット 月に、

刊の立派なジャー 遂げている。 ラヤや中 となった。 も定期的に送っていただけること せながら活発になってい を出版しており、 近年、 国四川省で初登 台湾の登山 またCTMAは、 J ナル『中華登山 界は、 AC図書室に 預を成. て、 遅れ ヒ 季 L 7

典的探険家」、 10 てくれている。 イ 『Japanese Alpine News』の編集長 『中華登山』 月 オニ ットのアルプス では、 ア 8ページを割いて紹介し 最新号 私を、 「ヒマラヤの東―チ 英文ジ 踏査研究のパ (2012年 活躍當代古 ヤ 1 ナ

する。 世界の登山界は狭いことを実感



会議事録平成24年度第9回(1月度) 理事

場所 日本山岳会集会室 21時10分 日本山岳会集会室

【出席者】尾上会長、

西村副会長

川瀬各理事、平井・浜崎野澤・永田・萩原・節田・

高原·森·小林各常務理事

【欠席者】 吉永副会長、古野・中山

(審議事項)

の改正について(小林)1・「寄付受入及び管理取扱規程」

用しやすくした。 (承認)を「寄付受入及び管理規程」と利を「寄付受入及び管理取扱規程」を簡略化した(条文は別添)。またて簡略化したの手続きを実情に合わせ

| こ・委員会改善の問題点と改善策

別添による。 でに理事会承認のもと一部実施しでに理事会承認のもと一部実施し

・人的強化:委員会の人的強化を と続合する。 を統合する。 を統合する。 を統合する。 を統合する。 を統合する。 を統合する。 を統合する。

「山岳』に委員会の活動を掲載する。 | 委員会活動の広報:25年度より |

取り組み案を今月中に送る予定で

をあげて取り組みたい。各支部の

13について (森) 3・日中韓三国学生交流登山20 員会の紹介をする。 (承認)

8月24~29日に実施。富士登山、フリークライミングなどを行ない、フリークライミングなどを行ない、で50~100万円を滅額すべく努で50~100万円を減額すべく努で50~100万円を減額すべく努力。 (承認)

た(高原) (承認) 林野使用許可申請(継続)があっ はい (本語) があっているより国有

5・会組織図について(高原) 6・入会希望者について(高原) めた。(別添資料) (承認) (承認)

(承認)

【報告事項】

はなかった。短い期間なので総力版について(収益事業・会員サー版について(収益事業・会員サー

ある。

て(支部活性化PT)(高原)2・各支部問題点、提案等につい

たい。 24年12月の支部長会議資料をまをすると同時に、今月開催の支部をすると同時に、今月開催の支部をすると同時に、今月開催の支部とめ、問題点や要望に対して回答とめ、問題点を報答を表

見交換会について(節田) 3・東北海岸トレイル(仮称)意

などの意見を述べた。
また利用者目線で設置してほしい、
な益的な事業として協力したい。
公益的な事業として協力したい。

が対応して進める。(高原) し依頼について、資料映像委員会覧会への当会所蔵絵画資料の貸出

申請について(永田) 5・「子どもゆめ基金」第2次審査

審査の申請を行なった。第1次審査に採択され、第2次

4万6000円の寄付があった。 24年12月13日以降、3件計13 6・寄付受入報告について (小林)

7・『JAN (Vol.14) 2013.

目次紹介及び4月初旬に発刊をについて(節田)

ドブック出版などが議題。 益財団法人昭和聖徳記念財団発行 12・平成24年度秩父宮記念山岳賞 話などを掲載した。 頼があった。 8・NPO法人アースワークスソ 2・小島烏水祭が高松市で4月13 算作成・事業計画、 26日出~27日田では、 1.支部事務局担当者会議(1月 に掲載された。 11 <u>训</u> 引捕獲」の実施について、 国有林における「ニホンジカの誘 原 23年度の活動報告があった。(高 9・NPO法人ヒマラヤ保全協会 サエティのカナダ・アラスカ震災 【今後の予定】 10・静岡森林管理署よりの富士山 金について依頼があった。(高原) (第251号平成25年1月10日公 (小泉弘氏受賞)の記事が『昭和』 よりの冬募金について、依頼及び 漂着物撤去支援活動への賛同、募 猪熊隆之会員による気象予報の 1月号について (高原) (西村 三百名山ガイ 25年度の予 (高原) 協力依 (萩原)

れる。 第6回成果報告会が、 行なわれる。 5・富士山測候所を活用する会の 究会が2月23日出~24日旧実施さ なわれる。 日出~31日旧に大阪府高槻市で 3・森づくり連絡協議会が3月30 4.日山協第51回海外登山技術研 (高原) (高原 (高原 1 月 27 日

(H)

玉枝氏) が10月12日出、 7 · 青森支部創立20周年記念式典 催される。 ブの20周年記念祝賀講演会 6・ヒマラヤン・グリーン・クラ なわれる。 が2月2日出大津市で開 (高原) 尾上会長出席。 青森県むつ市で行 (渡邊

4 目誌 **小** 1月

9 日 8 日 7 日 員会 山の自然学研究会 В 図書委員会 総務委員会 ブ りの会 $\begin{array}{c} Y \\ O \\ U \\ T \\ H \end{array}$ デジタルメディア 図書管理委員会 スケッチクラ 高尾の森づく 集会委 С L U

日出~14日間に行なわれる。

高原出席。

(高原

11 日

フ

オトビデオクラブ

九

Ŧi.

10 目

常務理事会 委員会

山 岳地理

ークラ

図書受入報告(2013年1月)			
編著者	書 名	ページ/サイズ 発行元	刊行年 寄贈/購入別
松崎中正	静山巡歷	263p/19cm 白山書房	2013 著者寄贈
増沢武弘 (編著)	南アルプスの自然	368p/27cm 静岡県環境森林部自然保護室	2007 大澤純二氏寄贈
角幡唯介	アグルーカの行方:129人全員死亡、フランクリン隊が見た北極	407p/20cm 集英社	2012 出版社寄贈
流石英一(編)	御坂層 (第73号): 御坂山岳会 創立60周年記念	298p/26cm 御坂山岳会	2010 発行者寄贈
佐藤聡史 (編)	水彩画家 丸山晚霞展:日本水彩画会創立100周年記念	84p/30cm 丸山晚霞記念館	2013 発行者寄贈
「山の日」 制定協議会 (編)	「山の日」ネットワーク東京会議報告書(2012年10月3日)	60p/30cm 「山の日」制定協議会	2012 発行者寄贈
Jenny Paterson (ed.)	The Journal of the Mountain Club of SouthAfrica 2011 (No.114)	165p/24cm Mountain Club of South Afric	2012 発行者寄贈

1月来室者

Ш 竖研 クラブ 究所運営委員会 スケッチク ス

15 Ĭ

会

16 日 理事会 も会 海外委員会 つく

17 日

山の自然学研究会

支部活

性化PT

青年部

19 日 18 日 資料映像委員会(全国 山 둈

博物館会議

21 日 フォトビデオクラブ 公益法人運営委員会 委員会 資料映像委員会 総務

三水会 ラブ 総務委員会 みちのり山の会 Y O U T H 緑爽会 海外 C L

田中淳子

東海

23 日

22 日

図書管理委員会 スキー

ク

24 日

31 30 28 26 25 日日日日日 自然保護委員会 委員会 学生部 山遊会

麗山 デジタルメディア委員会 Y O U T H 支部事務局担当者会議 会 C L U B

会員異動(1月分)

宮下 根来春樹 岡田邦三郎 磯田郷一郎 日本製紙山岳部 弘 (7 0 5 9) $\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 & 8 & 2 \\ 1 & 0 & 1 & 8 & 2 \end{pmatrix}$ (89 5 5 4 6 4 0 2 9 8 6 北海道 関西

八木 北村義男 均 (10458) 京都・滋賀

梶山 永田由紀子 小和田和貞 徳島豊子 彦 1 2 7 8 1 (13949) 1 2 8 0 1 福岡 東海 東海

英彦山を世界遺産に

史跡指定を目指す

明らかにした。英彦山の歴史を生か 彦山 る風習の研究を進めている。 700万平方景を調査。 ら、英彦山の国史跡指定に向けて約 気込みを話す。 を持てる元気な町にしたい」と意 を目指して本格的に取り組む考えを 古文書の解読や現地調査、 30人の学識者が6チームに分かれて の旗を揚げ、 のりは長いが町民と一緒に世界遺産 度に新設する方針。寺西町長は「道 レーザーで地形や史跡を測量し、 ゙まちづくり課」を(仮称)2013年 たまちづくりを進めるために、 :本三大修験道場として知られた英 福岡県添田町の寺西明男町長は (西日本新聞記事 (1200%) の世界遺産登録 英彦山を守り、 添田町は本年度か 1月9日より 15年度の国 上空から 現在に残 14年度 誇り 約



北西尾根から英彦山神宮上宮(中岳)

英彦山

中岳 仰を集めた。神道の国教化政策を進 年間200万~300万人の登山客 よって修験道は途絶えたが、 めた明治政府による1868 中世から近世にかけて九州一円の信 融合した修験道の拠点として栄え、 日本古来の山岳信仰と仏教や道教 **呂)、北岳(1192呂)からなる。** や参拝者が訪れる。 一百名山にも九州の霊山の 福岡県と大分県の県境にまたがる (11882)、南岳 年の神仏分離令や排仏棄釈に 深田クラブ日本 1 2 0 0 一つと紹 現在も 明

(北九州支部 竹本正

だった英彦山神宮も、 的風致維持向上計画」の認定もめざ 秋に護摩焚きを催す予定。 職が高野山で135日間の修行を りの修験道復活を計画。 4月には神 も募る。 設置し、 し、専門家による計画策定委員会を 育成で国の補助が受けられる「歴史 る考え。歴史的建造物の復元や人材 に取り組み、 周辺と町中心部の史跡の保存や活用 し、英彦山中腹に護摩壇を設けて春 新設するまちづくり課は、 かって英彦山修験道の拠点 計画を実施する住民団体 10人近い職員を配置す 約140年ぶ 英彦山

インフォメーション

登山を楽しくす ~17時 (受付 科学委員会 費用 申込 F ∑jacforum@31pc-seijo.com A X 3月10日までに、 5 0 0 円 ハガキで平野裕也 (資料代

1

ル

〒15-006世田谷区成城4-3 $\begin{array}{c} \mathbf{EXX} \\ 0 \\ 3 \\ 4 \\ 8 \\ 4 \\ \end{array} \begin{array}{c} 0 \\ 3 \\ 4 \\ 8 \\ 9 \\ 6 \\ 8 \\ \end{array}$ 3-5-2 0 2

演題

1

「高山植物の見方と楽し (東京農業大学地域環

み方

境科学部森林総合科学科森

林生態学研究室

中村幸人

日時 る科学V

3 月 23 日 (土) 13

12時30分~

▼フォーラム

* アクセスなどの詳細は立正大学 ムページを参照

◆「小島烏水祭」のご案内

②「日本の氷河地形の特徴

(明治大学名誉教授、

日本山

岳文化学会長

小疇尚科学

4月13日出~ 14 日 (日) 四国支部

場所 日程 期日 13日出受付 (12時~) 見学と散策:「栗林公園 香川県高松市内 国指定特別名勝)、 「高松

る? 知られざる驚きの生態

(茨城県立自然博物館動物研

③「クマに出会ったらどうす

周辺 前夜祭: アトラクション) 18時30分~ (懇親

場所

立正大学大崎キャンパ

ス

4

市番町」

(小島鳥水誕生地

号館431教室

農学博士)

究室主席学芸員

山崎晃司

定員

先着200名(受講票は送

1

の場合のみ連絡します 付しません。定員オーバ

14 日 (日) 15時30分):顕彰碑除幕式、 ·記念式典 (9時 (

> 費用 申込 雲閣 申し込む (〒77-88徳島市 2月末までに、四国支部 記念講演会(高松 ハガキ、FAX、 1万5000円 民家・三木家28代目当主 藤信行 『小島鳥水』 著者) ② 島鳥水と日本山岳会」(近 碑前祭 阿波忌部氏と大嘗祭」(三 そてつの間):① (峰山公園)。 国指定重要文化財 メールで 城 小 披

 $\begin{array}{c} \text{FAX} \\ 0 & 8 & 8 & (6 & 2 & 5) & 6 & 2 & 1 & 5 \\ \end{array}$ ⊠skk@jac.or.jp)

住吉5丁目8-75

山登山 計画します *15日は希望者 は無料送迎バスあり)。 、JR高松駅から車で10分、 13日夜の宿泊、ホテル「花樹海 (バス代など別途必要) (定員40: 人 に剣 当日 を

定員

15 名

*小島烏水祭と四国の山巡り

集会委員会

*申込者に詳細案内を送ります。

日時 地集合現地解散 山を巡り、 徳島の剣 11 日 4月11日休~14日 小島鳥水祭に参加。 Щ JR高松駅 三嶺、 香川の竜王 (日) 現

木の目草の芽』 自然保護委員会で、1911年を発行

日に開催された埼玉支部自然保発行しました。今号は、1月16星草の芽』1月号(最新号)を自然保護委員会機関紙『木の 読料は年間千円 ネイチュア・フィーリングの会」 護シンポジウムの報告や 連絡ください。 の紹介などを掲載しています。 機関紙は年6回隔月発行、 購読希望の方は左記までご (送料込み) 「信州 で購

振込先(郵便振替:00180 申し込み:川口章子 ≥ syuaki@pony.ocn.ne.jp 0 4 7 (4 6 3) 8 7 2

費用 解散 3万5000円 14 日 JR高松駅

申込 郎 3月31日までに、 $\begin{array}{c}
 \hline
 103 (3408) 5706
 \end{array}$ 下河邉史

* 申込者に詳細案内を送ります。 ≤ s-shimo@fg8.so-net.ne.jp)

とトルガルト峠越え12日間 ◆キルギス天山展望トレッキング

えるキャンプトレッキングと、 17 キルギス東部。 日本人に、 あまり アラクル峠を越 知られていな 集会委員会 \mathcal{O}

||

Щ П

[章子)

加

入者

日本山岳会所蔵資料公開のお知らせ 資料映像委員会

資料映像委員会では、会報『山』にて、所蔵資料の公開 を行ないます。

現在、日本山岳会では102号室を資料室とし、約400点 を保管。その多くは、日本の登山文化を継承するうえで 貴重な書、絵画、地図、写真、登攀用具、ピッケルなど、 じつに多種多様です。

ところがこの資料についての詳細を知る人が少なく なったこと、委員の交代、保管場所など、多くの問題が 山積みというのが現状です。過去の資料受入方法、保管 方法に問題があったことも否めません。100年以上の歴史 をもつ会ならではの問題です。

資料管理にあたり、数年前より㈱エイジスのシステム (保管場所管理コード)を導入。ところが、102号室への移転 に伴い、保管場所にズレが生じ、煩雑になりつつあります。

そこで今回、これをひとつのきっかけと前向きにとら え、資料の調査・研究をしつつ、整理をすることにしま した。資料を公開することにより、不明な部分の情報や 新たな情報を得、それをデータ化し、次世代を見据えた 体制づくりを目指します

公開する資料は、委員会で厳選させていただきます。 資料に価値をつけるのは難しいことですが、先輩方のご 教示をいただきながら、委員会をあげて取り組んでまい ります。

資料に関するご提案、ご意見、ご指摘など、下記まで お寄せいただきたく思います。

なお、掲載は4月号より予定しております。どうぞよ ろしくお願いいたします。

資料映像委員 奈良千佐子 giacshirvo102@jac.or.jp 問合

三井吉 由

TEL

0

9

0

 $\widehat{7}$

8

6

7

6

1

K

京都

放送局

費用

41 15 名 万円 (定員で締 を予定

(チ 讱 ヤ 1 ジ

筝

TEL

京

場

所

ル 班 登 L ゥ 会期 ベンリ ヤン 西 そ 東 チ ガ チ ベ 7 月9日 ŋ ル ~ ッ 1 ポ ッ ŀ \exists ン Ш 1 0) など (火) 群 力 0) \tilde{O} ナ 1 (· ラス、 12 油 ル 4 オ チ 日 彩

15

を 力 ル 4 絵

都 下 9 0 7 5 ル 市 1 時30分~ 主 1 上 プラ 京 税 (8 2 3 X 町 18時 ザ 知 9 恵 ギ 6 光 ヤ 1 5 4 院 ラ 23 丸 IJ Ν Н 太 1

後は、

画

ŧ

サイ

1

上にア

ッ

プさ

1

が

やと情報を伝えた。

帰国

期間

并 27

北 \mathbf{H}

京 (木)

ゥ 7

ル 月

4 8

チ \mathbf{H}

((月)

内田

I嘉弘

チベ

ットの山

シュ 東京 6

ク

(

力

ラ

コ

ル

(原

エ

バ ナ の

ワ ナ

4

Ш

班

テ ケ

シ

ŀ

泊 泊

高

18

オ

B

口

'n

ジ 3

(

ガ

峠

力 ナ

4 ガ

チ ル 1

北京~

東京

(ル

力

ラ ル

ク 1

ij

湖 ((立てです。

んびり高原逍遥

ハイキングの

2本

mt-sun@rosenet.jp

『山岳』第108年の原稿募集

(金)

本会の機関誌『山岳』第百八年(2013年)の発行は、 6月下旬を予定しております。登山記録、紀行、調査・ 研究、読み物など、会員の皆様方からのご投稿をお待 ちしております。原稿締め切りは4月中旬です。なお、 採否につきましては、編集委員会に一任させて下さい。 できれば、メールでのご連絡、ご送稿をお願い申し 上げます。

「送り先」〒274-0073船橋市田喜野井2-1-4 節田重節

たようだ。

それ

からは早

か

欧米の各クライミン

· グ関

連

+

ッソ 場

ク

で

知

つ

た。

В

か

? ら 4

ル

クラに到着

して C帰還

から

ア

ッ

吻合は)、

本

たち

0)

フェ

1

ス

(『山岳』編集担当理事・節田重節)

た成

(果だっ

成

功

0)

報

せを

私

さ

うござ とま ことが を育てて を痛 な が 0 ❖編集後記 ん 皆さん が、 ŋ 'n あ 役 編 15 無後記: 感する ため、 るけ で 7 目もする ひと 15 助 細 1 13 ま けて 々 る 年 ħ 15 が、 う。 早 け ば は か ί, 今月号

よろしく お 手を した点 -の約 願 た。 る め 前任 次は半 来月号でそ 道 取 り ただき、 東でサポ を模索 だけ 毎号自 書 たします ŋ か 合う形 ら大局 13 あ 神 7 分 れ あ 長 お か 分 1 きた 幹雄 ま $\hat{\sigma}$ n 的 れ ŧ 1 未熟 なこ も終 が Ū L 7 خ れ

日本山岳会会報 山 813号

2013年(平成25年)2月20日発行 発行所 公益社団法人日本山岳会 **〒102−0081**

東京都千代田区四番町5-4 サンビューハイツ四番町 TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441 発行者 日本山岳会会長 尾上昇 編集人 柏 澄子

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp 印 刷 株式会社 双陽社

たと とき 報 え 1 1 頂 Ū せでし は、 マン \mathcal{O} 力 0) とき、 ゔ。 工 卜 マン パ ズ 1] 隔世 ザ ル ズに と走 デンと べ ベ \mathcal{O} ス 女王に 5 2 £ \$ た H ともあ つ X た。 伝 1 ル

لح

き

埋

め

は

ス

1

ス

W ナ

1 ス 丰 後には着き ヤ えら プ 俊足 ラン か

65 つ 海外 初 て 3 登攀は、 巻頭 登 チ 山 1 0) 助 ## 牛 4 成 ヤ か 金を受け 5 的 3 にも ヤ 1 注 を た ル 目 南 登 15 ただ Щ れ

登

15

ま 1)

から ア 動

60

年

前

0)

工 伝

ベ わ

V

ス

<u>۱</u>

ル

な様子

が

つ

てきた。